

## 令和3年度 文教委員会資料④

### 【所管事務の調査（報告）】

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく取組状況について

資料

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく取組状況について

参考資料1

川崎市これからのコミュニティ施策の基本的考え方パンフレット

参考資料2

まちのひろば ひらきかた手帖

市 民 文 化 局

(令和3年5月27日)

地域包括ケアシステムの構築に向けた取組との連携により、コロナ禍においても、工夫しながら、つながりの機会の創出やコミュニティを継続していくことに重点を置き、多様なつながりを育む地域の居場所として、様々な「まちのひろば」が展開されていくよう、次のとおり進めてきました。

## 1 有機的な事業連携等による横断的な展開について

### (1) 庁内の取組との連携

「まちのひろば」創出に関わる事業やイベントに関する庁内調査を行い、連携について個別相談を実施

- ・ 公共施設の利活用の促進に向けた取組
- ・ 事業やイベントチラシなどへの「まちのひろば」ロゴマークや「希望のシナリオ」イラストの使用
- ・ 各イベントや所管施設などで「まちのひろばのれん」掲出や「まちのひろばひらきかた手帖」の配架

#### 具体的な連携事例

- ・ こども文化センター全館に「まちのひろばのれん」掲出(こども未来局)
- ・ 王禅寺工コ暮らし環境館による「まちのひろば」紹介ポップ作成(環境局) など



王禅寺工コ暮らし環境館作成のポップ

### (2) 各区における「まちのひろば」の取組

- 【麻生区】 認定NPO法人あさお市民活動サポートセンターと協働で、自薦、他薦で集まった「まちのひろば」を紹介する麻生区「まちのひろば」冊子を作成
- 【多摩区】 多摩区ソーシャルデザインセンターの事業として、地域への「まちのひろば」の展開に向け、こども食堂、たまミュージックビレッジ等の取組や、地域でのイベント開催に対する支援を実施
- 【その他の区】 市政だより区版において、区内の「まちのひろば」を紹介 など



麻生区「まちのひろば」冊子



多摩区ソーシャルデザインセンターによるイベント支援

### (3) まちのひろばWAプロジェクト

地域の居場所「まちのひろば」の取組に賛同する人に「まちのひろばのれん」を掲げてもらい、「まちのひろば」の見える化を推進するとともに、「まちのひろば」を実践してみたい人向けの「まちのひろばひらきかた手帖」による普及啓発の推進

- ・ 令和2年11月より本格実施を開始し、現在「まちのひろば」の趣旨に賛同いただける方を募集中
- ・ 「つながりどKAWASAKI」と連携し、宣言した一部の「まちのひろば」の情報を掲載



## 2 社会変容を踏まえた「まちのひろば」の紹介

コロナ禍においても「まちのひろば」づくりが停滞しないように、オンラインを活用した「まちのひろば」等の情報を、アウトリーチや募集などにより幅広く集めて市民に提供

### (1) おうちでつながる「まちのひろば」(市HP)

地域とつながりたいと思っている方及び「まちのひろば」の取組が停滞している実践者への情報提供を目的に、オンラインを中心とした「まちのひろば」を随時更新して紹介する他、ぬりえやバーチャル背景など家で楽しめるコンテンツを掲載

- ※市HP「おうち時間の過ごし方等について」にリンクの掲載
- ・ 令和2年5月～ 14件掲載



### (2) まちのひろば探検隊with新しい生活様式(「つながりどKAWASAKI」)

新しい生活様式における「まちのひろば」の具体的なイメージが掴めていない方への後押しを目的に、実践者や参加者双方のリアルな声に焦点を当てた連載記事を配信

- ・ 令和2年5月～ 10件掲載



### (3) コロナに負けない! 「まちのひろば」(市HP)

- 新たな試みや工夫をしている「まちのひろば」の取組を募集し掲載
- ・ 令和2年11月～ 2件掲載

#### 掲載事例



アプリを活用した参加者確認



リアル×オンラインハイブリッドのダンス教室



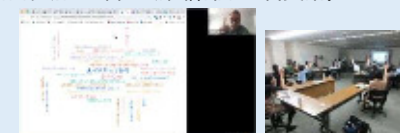
## 3 市民創発に呼応する行政に向けた職員研修

職員が積極的に地域に出て、地域の様々な課題に対応できるコーディネートスキルを有し、チャレンジする人材を育成する研修を実施

- ・ ①オンライン開催(会場集合型)、②複数講師、③複数会場、④後日動画配信などにより、コロナ禍だからこそできる視点で研修を組み立て、幅広い内容を多くの職員がフレキシブルに受講できる体制を実現
- ・ 研修内容もクラウドサービスの活用等により講師と双方向のものとするなど、新しいモデルの研修として開催

### (1) 「チャレンジする人材育成セミナー～小さなdoからはじめよう!」(当日参加18名、動画配信60名受講)

- 講師: 塩尻市職員 山田 崇氏(空き家プロジェクトnanoda代表)
- 受講者感想: ・ スマホを活用した質疑は新しい時代を感じた
- ・ 隙間時間に受講でき、聞き直すこともできてよかった



受講者の声を可視化したシート 研修会場の様子

### (2) 協働・連携研修『withコロナ時代の「まちのひろば」づくりを考える～場を編む人×元漫才師公務員～』(当日参加32名、動画配信32名受講)

- 講師: 株式会社ここにある 代表取締役 藤本 遼氏、尼崎市職員 江上 昇氏
- 受講者感想: ・ オンラインでもいくつもの工夫でリアルな雰囲気を受講できた
- ・ 常識を変えて自分の取り組み方から見直していきたい



2会場同時開催(協働・連携研修)

### (3) 地域コーディネーター研修(基礎研修77名、ステップアップ研修33名受講)

- 講師: 株式会社石塚計画事務所 代表取締役 千葉 晋也氏
- 内容: オンラインを活用した講義、地域の方へのヒアリング、課題解決に向けたワークショップなど

## 4 市民活動支援メニュー一覧の作成

・ 庁内外における既存の市民活動等への支援メニューをとりまとめ、支援内容を一覧表化

・ 令和3年3月には、各種支援制度を必要な活動団体に届け、まちのひろばの創出や新たな活動のきっかけづくりとなるよう「つながりどKAWASAKI」で公開

・ 各区ソーシャルデザインセンターにおける活動相談やコーディネート、各区の地域包括ケアシステム構築に向けた取組等で活用するため各区と情報共有



「つながりどKAWASAKI」の公開ページ

# 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく取組状況について(2/3)

## 5 まちのひろばフェス2020

新型コロナウイルスの影響により、対面による活動からオンラインによる活動を試みるも、ITスキルの壁にぶつかり、活動が停滞してしまう団体等もある中、**社会変容を踏まえたつながり方を示すことで、自身の活動に活かしてもらう**ことを目的にイベントを開催。当日は、オンラインと来場による参加のほか、YouTubeのライブ配信を取り入れて実施

### (1) タイトル

これからのコミュニティ活動を考えよう～withコロナ、afterコロナ～

### (2) 開催日時・場所

日時：令和2年11月1日(日) 13時30分～15時30分  
場所：総合自治会館大会議室等



まちのひろばフェス2020  
アーカイブ (YouTube)

### (3) 参加者

98名 他16名(事務局、コンサル等) 計114名  
・オンライン(Zoom) 30名  
・来場 23名  
・トークセッション参加者 13名  
その他、YouTubeによるライブ配信も実施  
・最高視聴者数 32名 ※アーカイブ 約530回再生



会場の様子

### (4) プログラム

- ・本市のコミュニティ施策(まちのひろば)について
- ・第一部 講演会「これからのコミュニティ活動～with コロナ、after コロナ～」  
講演者：NPO法人CRファクトリー 呉 哲煥 代表理事
- ・第二部 トークセッション「新しい生活様式を取り入れた活動のあり方」  
出演者：NPO法人CRファクトリー 呉 哲煥 代表理事  
Vege&ArtFes 中村 ふみよ さん  
オーベルグランディオ川崎自治会  
川崎市職員プロジェクトチーム
- ・質問タイム・まとめ



トークセッションの様子

### (5) 参加者の満足度

- ・「大変良かった」「良かった」の割合 約80%
- ・ハイブリッド開催について、約90%の方が気にならないと回答

### (6) 感想等 (一部抜粋)

- ・新しいやり方にチャレンジする必要性を感じました。
- ・初めて参加したのですが、実際に現場で活動している方の生の声、特に**コロナ禍での課題やそれを解決するための工夫について聞くことができたのが印象的**でした。また地元の川崎でこのようにコミュニティ形成の取組みが行われていることは今まで知らなかったため、**地元を再発見するいい機会**にもなりました。
- ・川崎から少し遠い場所に住んでいても、**オンラインとリアル**の同時開催だったために**気軽に参加**できました。
- ・市民活動団体と行政で、ハイブリッド開催の運営ノウハウを共有できるとよいと思いました。
- ・コロナに対する個人差を乗り越えた実践を聞いてみたい。後半には、Zoomでも意見交流ができると、もっと多様な意見が出てきたのではと感じました。



ファシリテーショングラフィックの様子



## 6 職員プロジェクトチーム

多様な主体と職員が協働で「まちのひろば」のモデル事業を実施することにより、「**まちのひろば**」の**見える化と機運醸成**を図る。また、職員の市民志向や現場主義による課題設定能力の向上等に向け、これからの時代を担う若手職員を対象とすることで、**地域に出ていく「市民創発」に呼応した職員の育成**を行うことを目的に実施

### (1) テーマ 「まちのひろば with 新しい生活様式」の創出

オンラインによる打合せやイベント当日の検温等、感染対策を講じて「まちのひろば」づくりを実践

### (2) 各チームの取組

#### 【1班】川崎区小田の防災空地を中心とした「まちのひろば」づくり

テーマ：遠出できないコロナ禍だからこそ、いつもの慣れ親しんだまちなかで楽しめる居場所をつくる

- ⇒ 地元のママを中心に**Oda petit marche**を開催(12月13日)  
内容：市産野菜、カレー、ドライフラワー、陶芸作品販売等  
参加者数：400名弱



Oda petit marche

#### 【2班】NEC玉川事業場公開空地中心の「まちのひろば」づくり

テーマ：コロナ禍だからこそ、「密」にならない広い屋外で小さな活用を積み重ねて、その結果から活用の可能性を探ろう

- ⇒ 地域の主体が連携し、**しもめまへ共創プロジェクト(地域×NEC×職員PJ)**として様々な取組を実施  
内容：11月～ 朝活(ラジオ体操、立ちヨガ)  
パンジー体操動画撮影



サイレントディスコ

12月17日 サイレントディスコ、ポッチャ

#### 【3班】鹿島田交通広場で育む「まちのひろば」づくり

テーマ：安らぎが求められる今だからこそ、植物の水やりやSNSのハッシュタグ(#)などを通してつながりづくりのモデルをつくる

- ⇒ 植物を育てながらつながりも育む**コミュニティガーデン**の実践として**鹿島田 #ひとはなかわさきプロジェクト**を実施



コミュニティガーデン予定地

※これまでのプロジェクト参加者数…令和元年度 **6職種22名**  
令和2年度 **4職種15名**

## 7 町内会・自治会への負担軽減策・加入促進に向けた取組

- 新たな加入促進に向けた取組
- 町内会・自治会への負担軽減策
- 新しい生活様式に沿った取組
- 町内会・自治会への財政支援のあり方の検討 ⇒ 令和3年4月22日の文教委員会で報告済み

## 8 区における行政への参加の考え方の検討

- 区民会議のリニューアルに向けて、令和2年11月に「考え方検討の方向性について」を整理し、町内会・自治会、元区民会議委員への説明会やアンケートを実施
- 説明会等での意見を踏まえ、令和3年2月に「考え方(案)」を取りまとめ、パブリックコメント(2月17日～3月23日)及び市民説明会(3月13日)を実施し、幅広く市民意見を募集
- 令和3年5月に「考え方」を策定し、令和3年度中に試行実施を開始

- より多くの市民が関わり参加しやすい機会の拡充
- 弾力的に運用できる柔軟なくみ
- 地域コミュニティにおける支え合う関係づくりと市民創発型の課題解決を推進

⇒ 令和3年5月27日の文教委員会で報告


# 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく取組状況について(3/3)

## 9 「ソーシャルデザインセンター(SDC)」の創出に向けた取組

地域レベルの活動等を下支えしつつ、多様な主体の連携により、市民創発によって、多様化する地域課題に対応する基盤「ソーシャルデザインセンター」の創出に向けて、区ごとに次のとおり進めてきました。

**【麻生区】** キックオフの様子

令和元年度に「あさお希望のシナリオプロジェクト」を立ち上げ75名の区民が参加。「みんながつながる みんなが輝く I♥ASAO」をキャッチフレーズに始動。令和2年度は、コロナ禍を考慮し対面とオンラインを併用して検討会を実施。また、検討の一環として、いくつかのグループに分かれ、市内のまちのひろばの視察ツアーを実施。




**【多摩区】《令和2年3月に開設》**

公募委員による検討会での意見を踏まえ取りまとめた「多摩区におけるソーシャルデザインセンター開設案」の実現を目指し、令和2年3月に、区民主体の運営による「多摩区ソーシャルデザインセンター」(多摩SDC)が多摩区総合庁舎1階に開設。

同年8月に運営組織が一般社団法人化され、地域活動に関する相談受付や資金支援、交流促進、まちのひろば開設支援(同年8月以降、多摩SDCの支援による子ども食堂4箇所の開設など)等の取組が実施されている。

令和3年3月には多摩SDCによる活動報告会が開催された。




多摩SDC

**【中原区】** スケッチブック

令和元年度に、地域活動をしている方へ、インタビュー形式による意見聴取等を実施のうえ「中原区におけるSDC創出に向けたスケッチブック」案を作成。

令和2年度は、庁内、区民対象のヒアリング等により意見集約を行い、スケッチブックの確定と、SDCの機能を具現化するための「中原区SDC創出に向けたデザイン」の枠組み・構成の検討を並行して実施。




**【宮前区】**

平成30年度に(仮称)宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクトを立ち上げ、宮前区の活動相関図を作成。

令和元年度には「みやまえ取り組み隊」が始動し、実際に現場で活動の様子を見たり、話を聞いたりする「現地ツアー」を実施(区民・職員等延100名以上の参加)。

令和2年度は今までの取組結果をまとめ、かわさき市民活動センターでのパネル展示の実施やHPでの周知を実施したほか、関係者へ定期的に区役所の取組などの情報発信を実施。




活動相関図

**【高津区】** まちづくりカフェたかつ

SDCの機能が生じるきっかけの創出等を目的とした、「まちづくりカフェたかつ」を、これまでに対面・オンラインにより計7回開催。

さらに参加者による交流と情報交換の促進のため、令和2年3月にFacebookグループを立ち上げるとともに、SDCの機能である資源マッチングにつながるような、情報提供・交換の「場」として運用を開始。

また、地域で積極的・主体的に活動している区民や企業など多様な主体による地域づくりに向けた意見交換会を開催。




**【幸区】《令和3年1月に開設》**

運営団体を公募し、令和2年6月に株式会社イータウンと協定を締結。令和3年1月に新川崎タウンカフェ内にさいわいSDC「まちのおと」が開設。当面の主な活動として、「知る」「話し合う」「学ぶ」「相談する」「つながる」を通して、市民や地域活動団体のサポートを実施。

令和3年3月には「まちのおと」による活動報告及び今後の運営の方向性や地域との連携のあり方について話し合いを実施。

※「まちのおと」は、自分たちが暮らすまちの「音」を感じ、「note(ノート)」として、まちのことを描いたり共有したりすることから名付けられました。




「まちのおと」

ソーシャルデザインセンターに求められる機能	ソーシャルデザインセンターの創出に向けた進め方
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能</li> <li>● 支援のニーズ(活動支援、資金助成、相談、情報収集)とメニューの効果的なマッチング</li> <li>● 地域課題の解決を目指した社会実験の展開</li> <li>● 地域からの視点や市民の立場に立って助言や専門的知識を活かした技術的支援、課題提起等を行う機能</li> <li>● 人材育成(地域の担い手や社会的起業家など)</li> <li>● 「まちのひろば」への支援</li> <li>● 地域メディアやソーシャルメディアを活用した情報の受発信</li> <li>● 新たな参加、交流のきっかけづくり 等</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の課題や人材・資源はそれぞれ異なることから、7区横並びに同じものを設けるのではなく、区ごとにそれぞれのやり方で検討を行う。</li> <li>● 最初から求められる機能をすべて網羅するのではなく、スモールスタートで経験知を共有し、試行錯誤しながら徐々に機能を追加していく。</li> <li>● 区域全体をカバーする包括的なSDCの創出が望ましいが、区の実情に応じて、テーマ、機能、エリアを限定したSDCも視野に入れた展開も検討</li> </ul>

**【川崎区】**

令和2年度から川崎区SDCモデル創出に向けた実証プロジェクトとして、NPO法人姿勢教育の孝心会と協定を締結。Facebookや関係団体のHPを活用した広報を開始し、取組の趣旨に賛同する協力者等や企画を募集。

コロナ禍の影響を受け、当初予定していた事業・イベント実施等の計画をすべて変更し、地域からの要望に対応しながら、スポーツクラブ等とのコラボによる体づくりを意識したイベントや、「いきいきかわさき区提案事業」におけるイベント実施の支援、同・実施団体との座談会(オンライン)による情報共有・団体間の連携支援、地域住民との公園の美化活動などを企画・実施。



オンライン座談会の様子

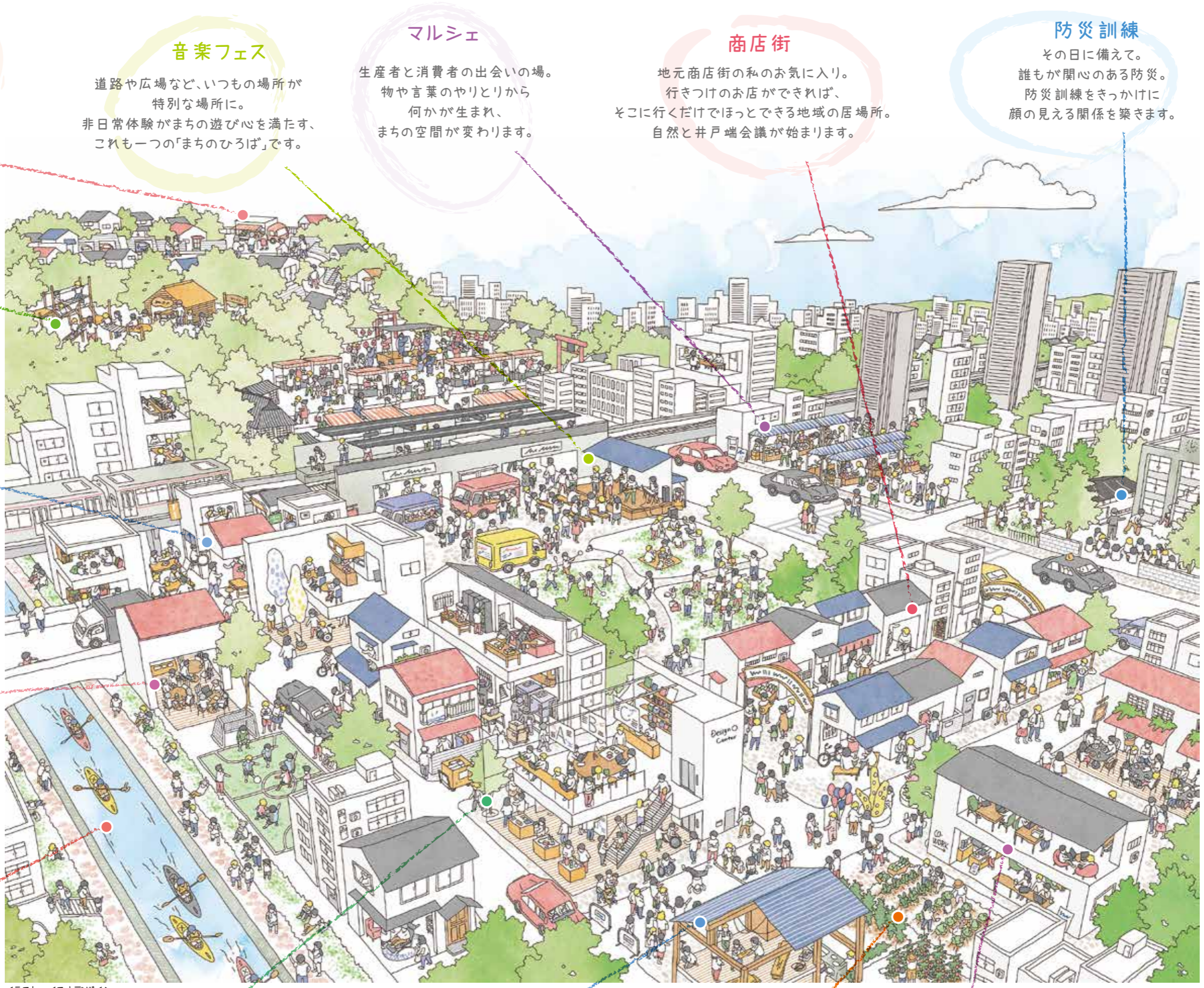
# 川崎市 これからの コミュニティ施策の 基本的考え方



**地域に広がる「まちのひろば」**  
希望のシナリオ(左図)は、概ね10年後、2028年の川崎市が目指す、多様なつながりや居場所【まちのひろば】を創出し、幸福度が高く、誰もが認められる持続可能な都市型コミュニティをイメージしたものです。こちらは、各区で開催した市民検討会議ワークショップ等で、市民の皆さんからいただいたご意見を基に作成しました。

平成31(2019)年3月  
【問い合わせ】  
川崎市民文化局  
コミュニティ推進部  
協働・連携推進課  
TEL 044-200-1986  
FAX 044-200-3800  
E-mail  
25kyodo@city.kawasaki.jp  
詳しくは市ホームページから

[これからのコミュニティ 検索](#)



イラスト：イソナデザイン

## 移動店舗

買い物に行くのが大変な高齢者等の強い味方。お客と販売員、お客同士といったつながりをつくります。

## 音楽フェス

道路や広場など、いつもの場所が特別な場所に。非日常体験がまちの遊び心を満たす、これも一つの「まちのひろば」です。

## マルシェ

生産者と消費者の出会いの場。物や言葉のやりとりから何か生まれ、まちの空間が変わります。

## 商店街

地元商店街の私のお気に入り。行きつけのお店ができれば、そこに行くだけでほっとできる地域の居場所。自然と井戸端会議が始まります。

## 防災訓練

その日に備えて。誰もが関心のある防災。防災訓練をきっかけに顔の見える関係を築きます。

## 森の遊び場

～プレーパーク～  
ワクワク・ドキドキ、子どもたちは遊びの天才！自然の中で創造力を育みます。

## 居酒屋街

居酒屋は大人の社交場！見知らぬ人と意気投合したことはありませんか。飲む人も飲まない人も楽しみながら人とつながる出会いの場です。

## 町内会館、認知症カフェ、 子ども食堂、縁側

町内会館や自宅を開放した認知症カフェ。子ども食堂はまちの食堂。家の中と外をつなぐ空間の縁側も使って、誰でも気軽に参加しやすくしています。

## 河川空間、河川敷

水辺では思い思いのアクティビティ(活動)が行われています。

## ソーシャル デザインセンター

人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能やプロデュース機能などを有し、まちにちょっと新しい何かを生み出す空間です。

## 古民家改修、DIY、ゲストハウス

空き家をDIYでリノベーション(修復、再生)。誰もが気軽に集える出会いの場や、地域活動の場として生まれ変わります。

## シェア農園

まちを耕す。育てる喜び、食べる喜び、分け合う喜び、楽しさもシェア。手塩にかけて丁寧に丁寧に。仲間づくりと一緒に。

## コワーキングスペース

地域での新しい働き方を提案。色々な分野の人たちと刺激し合い、つながることで、新たなビジネスが生まれ、地域の活性化につながる(かもしれない!?)。

## 川崎市のコミュニティ「希望のシナリオ」の実現に向けて

川崎市では、「希望のシナリオ」の実現に向け、多様な主体の連携により、「市民創発」による持続可能な暮らしやすい地域を実現するため、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」をつくりました。

### 市民創発とは？

色々な人や団体が出会い、つながることで様々な化学反応が起こります。この化学反応が、これまでにない活動や予期せぬ価値を創出します。このポジティブな相互作用により、暮らしやすい地域をつくります。



## なんで「希望のシナリオ」の実現は必要なの？

社会的な孤立による孤独死の発生、災害時の対応面での課題、空き家の増加による景観・治安の悪化、コミュニティの存続危機など、暮らしを取り巻く環境の変化から予想される負のシナリオを回避し、「希望のシナリオ」を実現することが求められています。

### 暮らしを取り巻く環境の変化

- ①超高齢化と人口減少社会の到来
- ②地域コミュニティの希薄化
- ③新たな公共サービスの模索
- ④新しい「豊かさ」の探求
- ⑤持続可能性への挑戦

回避すべき負のシナリオから「希望のシナリオ」へ

## 「基本的考え方」の基本理念

「市民創発」による市民自治と多様な価値観を前提とした「寛容と互助」の都市型コミュニティの形成

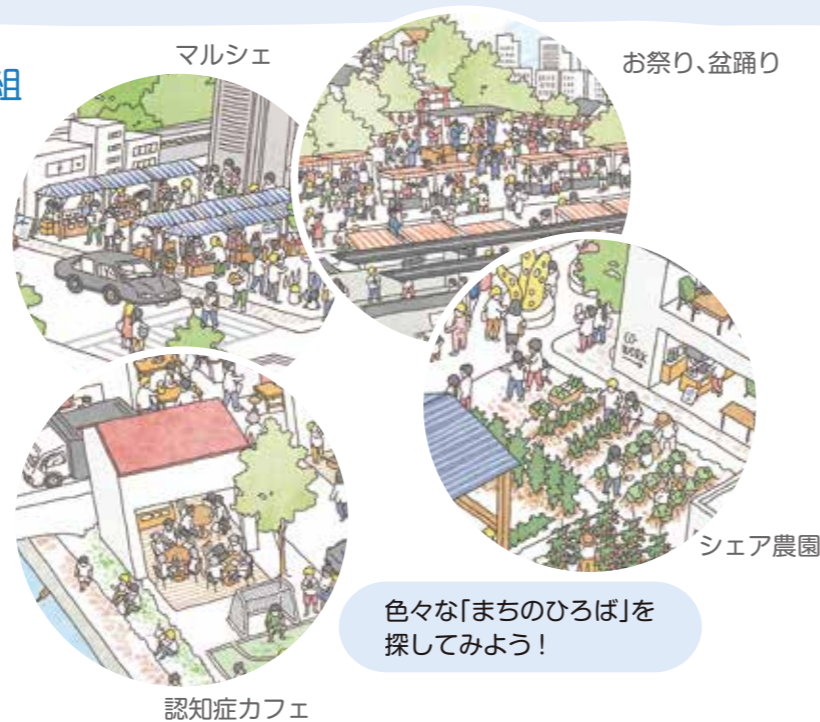
市民自治と多様な価値観を前提とし、様々な主体の出会いとその相互作用によって、新たな価値を生み出しながら変化を促し、地域の課題をしなやかに乗り越え、その具体的な解決を導く「市民創発」へのパラダイムシフトにより、多様なつながりや居場所を創出しつつ、幸福度が高く、誰もが認められる社会的包摂の進んだ持続可能な都市型コミュニティを目指します。

## 「希望のシナリオ」実現に向けた主な取組

市民、事業者、川崎市等が協力し、「希望のシナリオ」の実現に向けて、川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンと連携しながら、様々な取組を行っていきます。

### 地域レベル 地域の居場所「まちのひろば」の創出

誰もが気軽に集える出会いの場として、官民間わず、多様な地域資源を活用して、「まちのひろば」を創出し、人材・資源のネットワーク化や情報共有の促進、地域課題の解決等に取り組むとともに、市民のつながりの向上を図ります。



色々な「まちのひろば」を探してみよう！

### 区域レベル 区域の「ソーシャルデザインセンター」の創出

市民創発によって課題解決を行うため、地域での様々な新しい活動や価値を生み出し、社会変革(ソーシャルイノベーション)を促す基盤(プラットフォーム)を創出します。



ソーシャルデザインセンターのイメージ

### 市域レベル 様々な主体の連携や支援体制の構築

市域レベルの様々な中間支援組織の連携強化と効率的・効果的な支援体制の構築、「ソーシャルデザインセンター」との有機的連携、新たな役割の創出に取り組めます。



## 住民自治組織に関する新たな取組の方向性

### 町内会・自治会等 個別支援の強化

個々の町内会・自治会の状況やニーズを適切に把握し、必要とする支援のあり方について検討します。

### 負担軽減の実施

2019年3月に策定した「町内会・自治会への依頼ガイドライン」に基づき、依頼の判断基準を明確化することで過度な負担を軽減し、住民自治組織としての活動を促進します。

### マンションコミュニティ等

川崎市民の6割以上が共同住宅に住んでいることから、マンション等における連携強化やコミュニティ活動の促進に取り組みます。

## 既存施策の方向性

### 区民会議

現行の区民会議制度は廃止し、新たなしくみを構築します。区民会議が担ってきた「区における行政への参加」の機能については、その制度のあり方について検討していきます。

### まちづくり推進組織

「ソーシャルデザインセンター」の創出に向けた検討と合わせ、将来的なあり方について検討していきます。

### 区民活動支援コーナー等及び市民提案型事業等

「ソーシャルデザインセンター」との機能分担、又は一部機能としての再構築を検討します。

## 「希望のシナリオ」実現に向けて、市役所も変わります

より良い地域づくりに向けた縦割り行政を解消し、行政が担うべきこれからの役割に相応しい新たな自治体像を構築するとともに、徹底したプロセス重視と新たな参加手法を導入します。また、職員の意識改革や人材育成に取り組めます。

### 職員参加

- ・コミュニティ施策に関する職員アンケートの実施
- ・各種ワーキンググループによる作業
- ・ワークショップの実施
- ・市民との協働の実践
- ・プロジェクトチームの設置
- ⇒特に若手職員の参加が求められる

### 人材育成

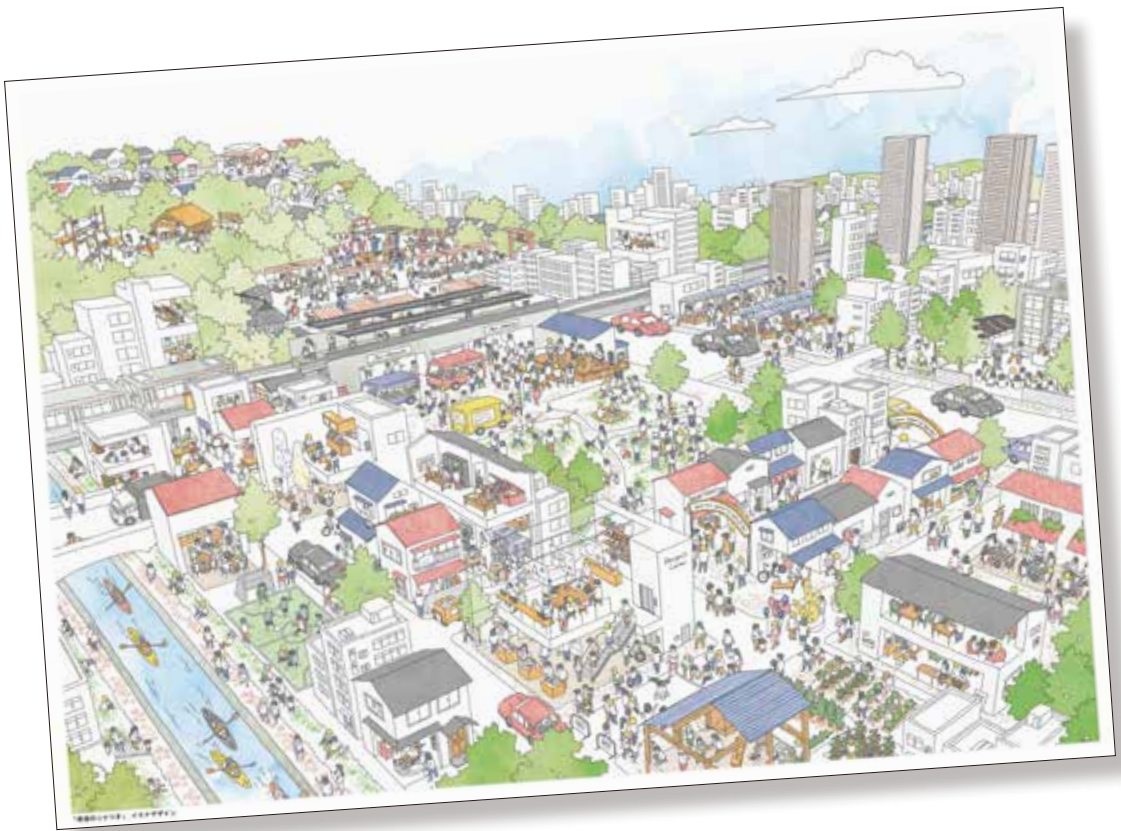
- ・市民志向の更なる向上
- ・現場主義による課題設定能力の向上
- ・市民との対話能力の向上
- ・コーディネートスキルを有しチャレンジする人材の育成

### 意識改革

- ・管理職自らが率先し、職員一人ひとりの意識改革を推進



# まちのひろば ひらきかた手帖



# 目 次

■ 「まちのひろば」って？ .....	1
■ なぜ「まちのひろば」が必要なの？ .....	1
■ かわさきの10年後の未来【希望のシナリオ】.....	2
■ 地域にひろがる「まちのひろば」 .....	4
■ 「まちのひろば」のすすめ .....	6
■ 「まちのひろば」に参加してみよう！ .....	7
■ つくってみよう！「まちのひろば」 .....	8
■ 「まちのひろば」お役立ち情報 .....	10
■ 「まちのひろば」実践例を紹介します！ .....	12
■ 「まちのひろば」を応援する川崎市の取組 .....	13



# 「まちのひろば」って？

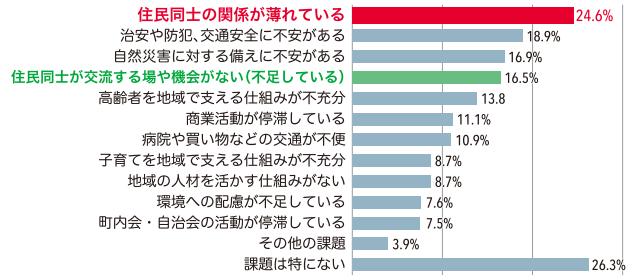
## ■「まちのひろば」って？

目的がなくても、誰もが気軽に集える場であるとともに、活動中の人々やこれから頑張りたいと  
思っている人にとってもつながりを作り、「コトおこし」のきっかけとなる地域の居場所のことです。

## ■なぜ「まちのひろば」が必要な？

### ○地域のつながりがなくなっている？

平成29（2017）年度に実施した市民アンケートでは、地域の課題として、「住民同士の関係が薄れている」がトップとなり、地域コミュニティの希薄化が進行する中、これからのコミュニティのあり方が問われています。



出典：平成29（2017）年度かわさき市民アンケート



出典：「友達の数で寿命はさまる」（石川善樹 2014）を参考で作成

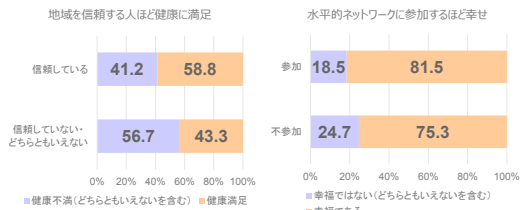
### ○つながりが最も寿命に影響する！？

健康でいるためには、「タバコを吸わない」、「飲み過ぎない」、「身体を動かす」以上に、誰かと「つながりがある」ことが寿命への影響が大きいという調査結果があります。

### ○地域を信頼する人ほど幸福度が高い！？

東京大学社会学研究室による「川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査」では、地域への信頼が高い人ほど健康に満足しており、水平的ネットワーク（ボランティア、スポーツ、趣味のグループのいずれか）に参加するほど幸せという結果になりました。

### 「川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査」

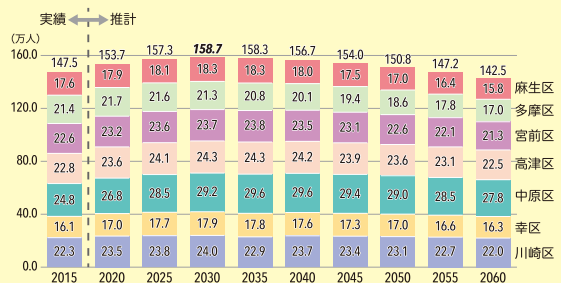


出典：平成30（2018）年度 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部社会学研究室による調査

### ●変わっていくわたしたちの暮らし

川崎市は、政令指定都市の中で高齢化率が低い都市ですが、将来的には、超高齢化、人口減少社会が到来します。

人生100年時代を迎える中、誰もが自分らしい豊かな人生を選び、住み慣れた地域で暮らし続けることができる取組が必要です。



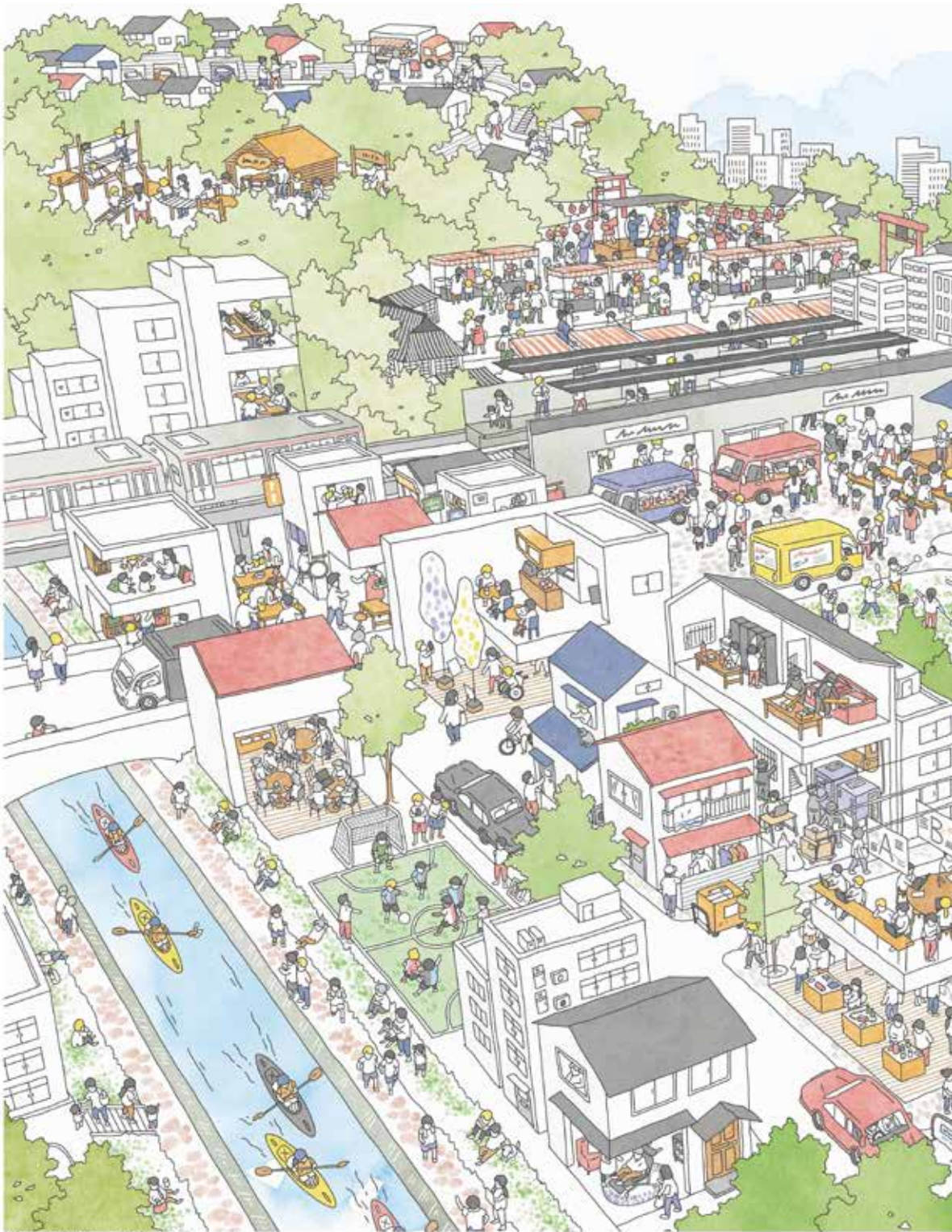
出典：川崎市将来人口推計



## ■かわさきの10年後の未来【希望のシナリオ】

川崎市ではこれから迎えるたくさんの暮らしを取り巻く変化に対して、悲観的な未来ではなく、市民の皆さんと一緒に目指したい10年後の川崎の未来「希望のシナリオ」を描きました。

「希望のシナリオ」の実現に向け、「**市民創発**」による持続可能な暮らしやすい地域を実現するため、平成31（2019）年3月に「**これからのコミュニティ施策の基本的考え方**」をまとめました。

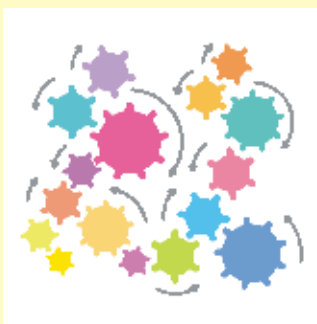


「希望のシナリオ」：イスマデザイン

## ●市民創発って？

いろいろな人や団体会い、つながることで様々な化学反応が起こります。

この化学反応がこれまでにない活動や予期せぬ価値を創出します。このポジティブな相互作用により持続可能な暮らしやすい地域をつくります。



【市民創発のイメージ】



## ■地域にひろがる「まちのひろば」

「希望のシナリオ」をのぞいてみよう！

誰もが気軽に集える地域の居場所として、「まちのひろば」が広がります。

### 森の遊び場(プレーパーク)

ワクワク・ドキドキ、  
子どもたちは遊びの天才！  
自然の中で想像力を育みます。

### 移動店舗

買い物に行くのが大変な  
高齢者等の強い味方。  
お客と販売員、お客同士といった  
つながりをつくります。

### 居酒屋街

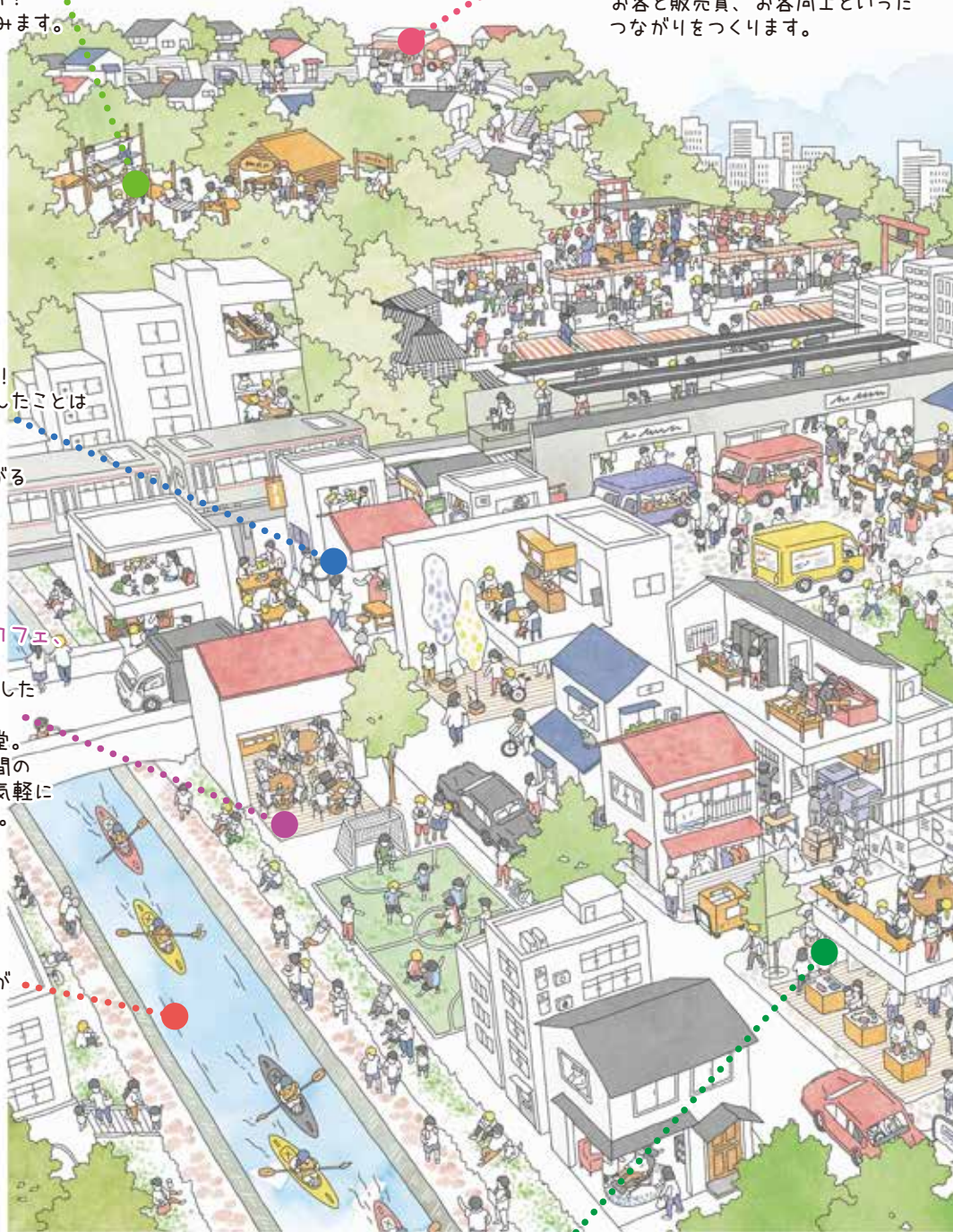
居酒屋は大人の社交場！  
見知らぬ人と意気投合したことは  
ありませんか？  
飲む人も飲まない人も  
楽しみながら人につながる  
出会いの場です。

### 町内会館、認知症カフェ、 こども食堂、縁側

町内会館や自宅を開放した  
認知症カフェ。  
こども食堂はまちの食堂。  
家の中と外をつなぐ空間の  
縁側も使って、誰でも気軽に  
参加しやすくしています。

### 河川空間、河川敷

水辺では思い思いの  
アクティビティ(活動)が  
行われています。



「希望のシナリオ」：イスナデザイン

### ソーシャルデザインセンター

人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能  
やプロデュース機能などを有し、まちにちょっと新しい何  
かを生み出す空間です。

## 音楽フェス

イベント時等は音楽の演奏でいつもの場所が特別な場所に。非日常体験がまちの遊び心を満たす、これも一つの「まちのひろば」です。

## マルシェ

生産者と消費者の出会いの場。物や言葉のやりとりから何か生まれ、まちの空気が変わります。

## 防災訓練

その日に備えて。誰もが関心のある防災。防災訓練をきっかけに顔の見える関係を築きます。

## 商店街

地元商店街の私のお気に入り。行きつけのお店ができれば、そこに行くだけでほっとできる地域の居場所。自然と井戸端会議が始まります。

## コワーキングスペース

地域での新しい働き方を提案。色々な分野の人たちと刺激し合い、つながることで、新たなビジネスが生まれ、地域の活性化につながる(かもしれない!?)。

## シェア農園

まちを耕す。育てる喜び、食べる喜び、分け合う喜び、楽しさもシェア。手塩にかけて丁寧に丁寧に。仲間づくりと一緒に。

## 古民家改修、DIY、ゲストハウス

空き家をDIYでリノベーション(修復、再生)。誰もが気軽に集える出会いの場や、地域活動の場として生まれ変わります。

# 「まちのひろば」のすすめ

「まちのひろば」は、多様なつながりを育む地域の居場所です。「まちのひろば」が広がり、いろいろな人がつながることで、新しい活動のきっかけになったり、地域の支え合いの場が生まれます。

## ○日常のサードプレイスに

家庭、学校、職場以外にも、いつでも気兼ねなく立ち寄れる場所があることで、日常の生活に広がりを持つことができます。

## ○困ったときの助け合いに

地域で顔の見える関係があることによって、災害時など困ったことが起きた時、お互いに助け合うことができます。

## ○まちに住む楽しさが広がる

まちに知り合いが増えることで、そこにしかない地域とのつながりを持つことができ、住んでいるまちがちょっと特別になります。



## ●「まちのひろば」を探してみよう！

「まちのひろば」に興味を持ったら、「まちのひろば」を探してみよう。既にまちなかにはたくさんの「まちのひろば」が広がっています。



例えば、まちなかのベンチで…



日常の買い物での1コマや…



町内会の防災訓練や  
お祭りに参加したとき…

3人集まって会話が生まれると、もうそこは「まちのひろば」の一つです。



# 「まちのひろば」に参加してみよう！

はじめは既にある「まちのひろば」に参加してみるのも良いかもしれません。新たなつながりづくりのきっかけになります。たくさんある「まちのひろば」のうち、いくつかの取組をご紹介します。

## 【Café みやまえ】

宮前市民館のロビーで市民の方が運営しているコミュニティカフェです。誰でも気軽に参加でき、1人でもふらっと立ち寄ることができます。

コーヒー片手に会話することで新たなつながりが生まれています。



## 【暮らしの保健室】

市内の数箇所で一般社団法人プラスケアが開催するまちなかの保健室です。病院に行くほどではないちょっとした悩みや病気を抱え、暮らす中での困りごとなど、まちなかで気軽に医療者に相談することができます。



## 【子どもの本のひろば】

小田急線読売ランド前駅に近い1軒家「ちゅうりん庵」で、毎週水曜日に開催されています。地域に無料で開放され、親子でふらっと立ち寄り、本と触れ合える居場所づくりを行っています。



## 【みどりなぐらし】

武蔵新城駅近くにある「NAYA enjoy space」にて、次世代を担う子どもたちにみどりあふれる地球を残すための講座やワークショップを実施しており、子育て中の親子の交流の場になっています。



## 【AirGreen】

新ゆりアートパークスのきれいな芝生の上で、朝のヨガや読書、ピクニックに昼寝。集まった人がそれぞれに好きなことをして過ごすことで、みんなにとって気持ちのいい場づくりを行っています。



# つくってみよう!「まちのひろば」

「まちのひろば」に参加するのもいいけれど、自分も居場所づくりをしたい! そんな方は「まちのひろば」の実践者になりませんか? 自ら場を持つことで、参加するだけでは得られない「訪ねてもらえる楽しさ」を味わうことができます。それでは、早速実践してみよう!

## はじめるまえの大切なPOINT

### 周りの人に話してみること

どんなことをやりたいのかをまずは周りの人に話してみてください。思いを伝えることで、企画を実行する際に必要な情報を教えてくれる人や、興味を持ち、一緒に活動してくれる人と出会える可能性が広がります。

#### STEP 1 話を聞きに行ってみよう。

まちのなかにはたくさんの実践者がいます。自分で「まちのひろば」をつくってみたいなら、興味・関心を持った取組にまずは参加して話を聞いてみよう。具体的なイメージづくりに役立つかも?

#### STEP 2 やりたいことを書き出そう。

いろいろな人の話を聞くことで、具体的なイメージができれば、やりたいことを書き出して、アイデアを膨らませよう。この時点で完璧なアイデアはなくてもOK!

#### STEP 3 どのくらいの規模で行う?

次にどのくらいの人数で行うかなど規模を考えよう。はじめは自分に無理なく、小さな規模で実験的に行くと、今後の課題や持続可能かどうかを見極めることができ、おすすめです。

#### STEP 4 具体的な開催場所を探そう。

どのくらいの規模で行うかを決めたら、場所を探そう。適切な場所が見つからない場合は、規模や内容を見直すことも必要です。場所代や備品使用料などの必要経費も確認しておこう。

#### STEP 5 実施にかかる予算はどれくらい?

どんなに魅力的な「まちのひろば」であっても、コストがかかりすぎれば実施も難しくなってしまいます。場所代など必要経費を計算したら、参加費を集めるなど収入と支出のバランスの確認も忘れずに。

#### STEP 6 実施までのスケジュールを描いてみよう

場所と合わせて実施日を決めたら、いつまでに何を準備するか具体的に決めていきます。必要な広報手段なども考え、スケジュールは余裕をもって設定しよう。

**さいごに** STEP1~STEP6の内容をノートに書き出したら、まずはやってみよう! トライすることで、新たなつながりやアイデアが生まれます。





## やりたいことメモ

プロジェクト名：ほん(本と本音)がたり・プロジェクト

やりたいこと：本を通じて、本音を語ることで、同世代のつながりづくりを行う

対 象：20～30代(学生・社会人問わず)

内 容：①アイスブレイク

②自己紹介&おすすめの本の紹介

③なぜその本をすすめたかの深堀

②～③を一人ずつ繰り返す。

④フリートーク

場 所：〇〇スペース

人 数：20名

回数・時間など：月1回、2時間程度

収支予算：【収入】 500円×20名=10,000円

【支出】 会場代1時間2,000円×3時間(準備含む)=6,000円

飲み物代1,000円、お菓子代2,000円 小計9,000円

【収支合計】 1,000円

スケジュール：10月1日 会場予約

11月1日 イベントチラシ作成、広報開始

12月1日 **開催日当日!**



# 「まちのひろば」お役立ち情報

企画を具体的に進めていくときに知っておくと便利なお話をまとめました。ご活用ください。

## ◎場所のおはなし

「まちのひろば」をひらくうえで、必ずしも固定の場所が必要ということはありません。それでも、人を集めて何かをするには、場所が必要になります。屋内か屋外か、駅から近いか遠いかなど、それぞれの場所のメリット・デメリットを事前に考えることがおすすめです。

「まちのひろば」は自分の家の庭をひらいたり、お店を活用したり、様々な場所で実践できますが、公共施設や空間を「まちのひろば」の取組で使いたい場合には、それぞれ必要な手続きが異なります。いくつかのポイントをまとめたので、ご参照ください。



「まちのひろば」ロゴマーク

## ◎会議室やホール、野球場など公共施設を利用したい場合

各区の市民館・教育文化会館、屋内・屋外のスポーツ施設等の市内公共施設は市民活動などのために借りることができます。施設の利用方法は、それぞれの施設にお問い合わせください。また、**川崎市公共施設利用予約システム(ふれあいネット)**に登録すると、ご自宅のパソコンやスマートフォン、各施設に設置された利用者端末から川崎市の公共施設の利用予約や空き状況を確認できるようになり、便利です。ふれあいネットでご利用可能な公共施設については、ふれあいネットホームページでご確認ください。

→ふれあいネットの利用者登録の詳細はこちら

URL : <https://www.fureai-net.city.kawasaki.jp/>



## ◎公園や道路など公共空間を活用したい場合

誰もが自由に利用することを目的とした公園や、本来人や車が通行するために設置された道路などを活用したい場合、それぞれの場所は設置の目的に照らし合わせて、必要な手続きが異なります。

### 公園・緑地 (多摩川緑地含む)

都市公園の全部や一部を利用するイベントを実施したい場合は「**公園内行為許可申請**」を行い、許可を受けることが必要です。

公園を使用したいと思ったときは、事前に**各区役所道路公園センターの管理課利用調整係**までお問い合わせください。

### 道 路

道路は**本来、人や車が通行するためのもの**です。各種イベント等を開催する場合は、「**道路使用許可申請**」を各所管の警察署に提出が必要です。また、イベント等において、道路上に物件等を設置する場合は、「**道路占用許可申請**」も必要となりますので、**各区役所道路公園センターの管理課利用調整係**にまでお問い合わせください。

※国道については、一部、国管理の道路もありますので、ご注意ください。

### 河 川

河川は**市以外に国が管理する場所や県が管理する場所**があります。利用したい場合は、どこが管理しているか、借りることができる場所なのかを確認することがまず必要です。

河川利用したい場合は、**早めに管理部署を確認し、ご相談**ください。

公共空間はみんなのものです。使用できない場合もありますので、早めにそれぞれを管理する部署にご相談ください。活用する場合には利用者や近くにお住まいの方々への配慮を忘れずに。



## ◎広報のおはなし

広報の方法はチラシを作成して配布したり、SNS を利用するなど、手段は一つではありません。どれを選択するかは印刷代などの予算やどの世代に伝えたいかによって異なります。

**チラシで広報** チラシ作成はワードやパワーポイントでも十分きれいなものが作れます。チラシには詳細を載せず、概要だけ伝えて興味を引くものもあります。一瞬で目を引くには**情報の引き算**も大切です。魅力的なデザインがわからない場合は、インターネット上やまちなかにある広告を見ると参考になります。また、置く場所に合わせ、サイズを考えて作ることも重要です。

**SNSで広報** SNSは費用をかけずにできる広報手段として人気です。一方で、利用するSNSによって使用している世代や載せられる情報が異なります。どのSNSも利用者に偏りがあるため、たくさんの人に伝えたい場合は併用もおすすめです。

Web上のフリー素材の使用は著作権  
や利用可能範囲等に気を付けて！

## ◎知っておくと便利！飲食と火気利用のおはなし

何かを実践するときには気になる「飲食」と「火気」のこと。知っておくと便利な手続をまとめました。

### 行事開催届

食品を調理して提供する際は、営業許可の取得が必要となりますが、寺社の縁日祭礼、町内会の夏祭り、バザー、学園祭等の行事については例外として届出で認められる場合があります。

行事で食品を提供する場合は、提供する食品の内容と調理方法等の確認が必要となるため、各区役所衛生課へ事前に相談し、届出を行ってください。

**Q. いつまでに届出が必要？**

2週間前まで

**Q. 手続きに手数料等はかかるの？**

無料です。

**Q. 届出に必要な書類は？**

行事開催届、出店店舗の配置図、所在地付近の地図、出店概要書、開催チラシ、パンフレット、実施計画書等概要が把握できる書類

**(受付・提出先)**

各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）衛生課食品衛生係

**詳細はこちら↓**

<http://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000035604.html>



### 露店等開設届

屋外イベント会場等で露店等を開設する場合、対象の火気器具等を使用する露店等では、消火器の設置準備と出店内容や使用する燃料等を記載した「露店等開設届」をあらかじめ所管の消防署に届け出る必要があります。

**Q. いつまでに届出が必要？**

イベント等の実施前まで

**Q. 手続きに手数料等はかかるの？**

無料です。

**Q. 届出に必要な書類は？**

露店等開設届、場所付近の見取図及び消火器の設置位置を示した配置図

**(受付・提出先)**

最寄りの消防署予防課予防係

**詳細はこちら↓**

<http://www.city.kawasaki.jp/840/page/0000060444.html>



継続的な実施等は一時的な行事開催届出ではなく、営業許可等が必要になる場合もあります。飲食や火気を使用する場合は、早めに問い合わせください。



# 「まちのひろば」実践例を紹介します！

はじめての企画は大変です。どんな広報をしよう？必要な手続きは何があるだろう？実践して難しかったことや工夫した点などを2つのプロジェクトの企画者に聞いてみました。

企画者の  
ゆりさんに  
聞きました

## 【介護スナック】

「高齢者の方が会話を楽しみながらお友達を作ることができる居場所づくりに挑戦してみたい！」

企画者のゆりさんは普段からお仕事でも介護の現場で活躍しています。その経験を活かして、「介護スナック」を開催しました。

### Q. 準備期間はどのくらい？

やりたいことは決まっていたので、具体的な実施方法や経費など大体2か月前から準備しました。

1か月前には企画を固め、広報を開始することができました。

### Q. 実践した中で難しかったことは？

対象者が高齢の方であり、開催場所まで車の送迎が必要になりました。

当日は運営のために開催場所から離れることができなかつたため、送迎を誰かにお願いする必要が生まれました。企画に賛同してくれた方々が快く車での送迎を引き受けてくれたため、無事開催することができました。

### Q. 実践してみたの感想

当日参加してくれた方が喜んでくれたのももちろん、参加できなかった方からも「参加したかった」という声があり、嬉しかったです。後日参加できなかった方でご飯会を開催するなど、次にもつながりました。

今回は1回目だったので、知り合いの方をメインにお声がけしましたが、初めての方もふらっと立ち寄れるような会を開催できたらいいなと思っています。



「まちのひろば」創出  
職員プロジェクトチーム  
メンバーに聞きました

## 【小田らんとん横丁】

いざ地震が起きた時に火災の延焼止めになる防災空地。「密集市街地である小田地区の防災空地をもっと知ってもらいたい！」という小田3丁目町内会の方と川崎市「まちのひろば」創出職員プロジェクトチームが連携し、イベントを開催しました。

### Q. どんな広報をしたの？

チラシを町内会で回覧したり、近隣小学校へ配布しました。地域の方に来てもらいたいイベントでは、広く発信をしなくてもその場所にあった広報を選択することで、たくさんの方に届くことがわかりました。

### Q. 工夫した点は？

イベントに来てくれた方に、防災空地でやりたいことをその場で付箋に書いて黒板に貼ってもらうオープンワークショップをやってみました。フリーマーケット、運動会、パパ会など、次につながるたくさんのアイデアが集まり今後の展開の参考にすることができました。

### Q. 今後の展開

オープンワークショップを通じて、防災空地でやりたいことがある人もいることがわかったので、その方々と一緒にイベントを実施してみたいと考えています。

イベントを企画し、実施するプロセスを楽しみながら、多くの地域の方に防災空地を知ってもらうとともに、素敵な交流が生まれたらと思っています。



# 「まちのひろば」を応援する川崎市の取組

## ○まちのひろばWA プロジェクト

「まちのひろば」は、そこに暮らす人々が気軽に立ち寄り、「和む」居場所であり、市民の主体的な「対話」を生み出し、地域をつなぐ「輪っか」となる、10年後の「希望のシナリオ」を実現するために必要な地域の居場所です。

「まちのひろばWAプロジェクト」は「まちのひろば」の概念と3つの「わ」に共感する人たちと協働しながら「まちのひろば」を見える化し、広げていくプロジェクトです。

参加方法は簡単！地域にひらいた居場所であることを宣言し、「まちのひろばのれん」をかざります。



※サイズ：12cm×9cm

興味を持った方はこちら↓

<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000109755.html>



## ○川崎市「まちのひろば」創出職員プロジェクトチーム

川崎市では、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、庁内公募により「まちのひろば」の創出を目指す職員プロジェクトチームを立ち上げ、22名の職員（令和元年度）が「まちのひろば」創出モデルの実践に向けた取組を進めました。

職員自らが実践することで、「まちのひろば」の創出に向けた課題や必要な支援などを学び、様々な業務に活かしていきます。



興味を持った方はこちら↓

<http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/38-1-16-1-4-0-0-0-0-0.html>



## ●これからのコミュニティ施策の基本的考え方

川崎市では平成31（2020）年3月に「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」を策定しました。その中で、暮らしを取り巻く環境の変化がもたらす様々なリスクを回避し、川崎のまちの将来像を描いた「希望のシナリオ」を実現するための基本理念として『「市民創発」による市民自治と多様な価値観を前提とした「寛容と互助」の都市型コミュニティの形成』を掲げています。

その具体的な取組として、「まちのひろば」の取組を広げるとともに、多様な主体の連携により、市民創発によって課題解決する区域レベルの「新たなしくみ」として、様々な活動に対する支援やコーディネート機能などを担う「ソーシャルデザインセンター」の創出を進めていくこととしています。



興味を持った方はこちら↓

<http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/38-1-16-1-0-0-0-0-0-0.html>





Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

発行元：川崎市  
令和2(2020)年3月

(問い合わせ)

市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課  
TEL 044-200-2094 FAX 044-200-3800